



旧見付学校だより vol. 76

平成 29 年 9 月 5 日

【学校の水はどうしたの】

見学に来た小学生から「見付学校では水はどうしていたのですか」と質問を受けました。今は水道があり、水をふんだんに使うことができますが、磐田で水道が使えるようになったのは昭和30年になってからです。では明治時代はどうしていたのでしょうか。



明治時代の尋常小学校は井戸水や川の水が頼りでした。見付学校は磐田原台地の裾にあり、見付の中川の底からは水がわき出ているなど、水に恵まれたところでした。場所は不明ですが、見付学校では井戸をつくっていたようです。市内のほとんどの尋常小学校は井戸が掘れる平野部に建っていました。

大藤小学校は台地の上にあり、昔の図面を見ると校舎の周りに数カ所の天水井戸があります。周りの農家とともに水に苦労したことが偲ばれます。

大正時代頃からは機械式のポンプが使えるようになり、井戸水をくみ出していました。そのため、見付中学（現磐田南高校）や見付女学校（現磐田北高校）などは、少し高台に学校をつくることのできるようになりました。



手押しポンプとつるべ

旧見付学校では、企画展「新制中学校 70 年の歴史～磐田市内の中学校の誕生から現代まで～」を開催しています。ぜひご来館ください。

〒438-0086 磐田市見付 2452

磐田市旧見付学校

TEL & FAX 0538-32-4511

（休館日：月曜、祝日の翌日、年末年始）